

第一三共 2025年度Wish listのご紹介

第一三共株式会社
研究開発本部 研究統括部
研究イノベーション企画部 オープンイノベーショングループ

内容

- ◆ 研究開発戦略
- ◆ TaNeDS公募プログラム
- ◆ 2025年度のWish List

持続的成長に向けた第5期中計の位置付け

第5期中計は、2025年度目標「**がん**に強みを持つ**先進的グローバル創薬企業**」を達成し、2030年ビジョン実現に向けた成長ステージに移行するための計画と位置づける

- 2020年
- ◆ がん事業立ち上げ
 - ◆ 経口Fxa阻害薬
 - ◆ リージョナル・バリュー拡大
 - ◆ AZアライアンス
 - ◆ 研究開発投資拡大



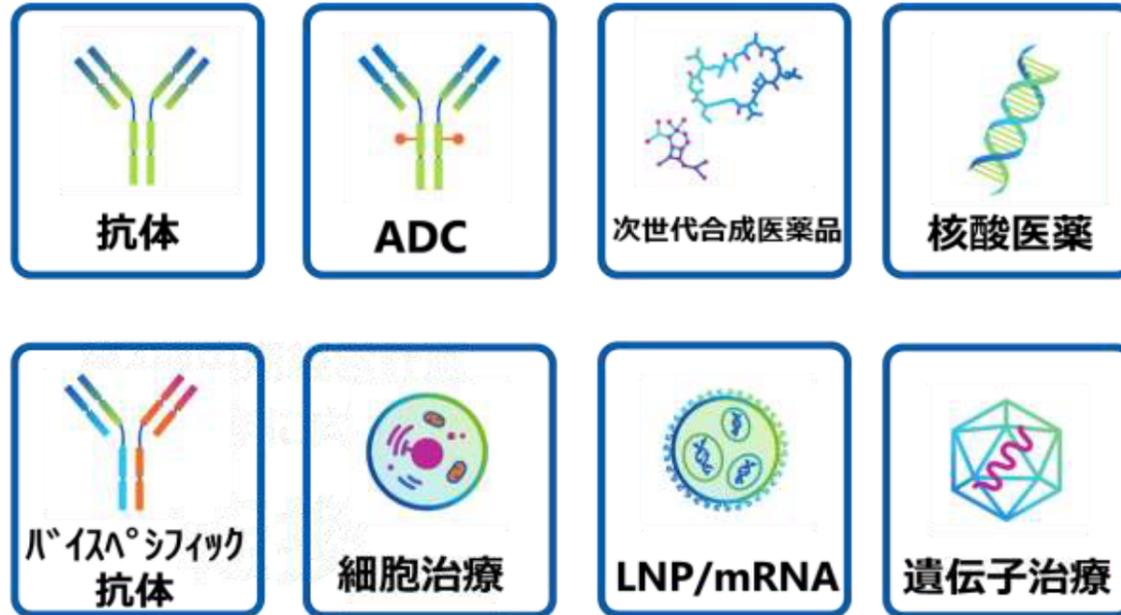
2030年ビジョン

サステナブルな社会の
発展に貢献する
先進的グローバル
ヘルスケアカンパニー

- ◆ がん領域でグローバル top10
- ◆ 更なる成長の柱が収益源の一つ
- ◆ 各事業ユニットが新製品を軸とした収益構造
- ◆ 事業を通じたサステナブルな社会の発展への貢献

マルチモダリティ戦略

Optimized modality



アンメット
メディカルニーズ
の高い疾患

- ◆ 創薬標的や疾患に適したモダリティの選択に加え、新規モダリティの開発も同時に進めることにより、**最適なモダリティを創製**
- ◆ 持続的成長を実現する鍵は、次の成長ドライバーの**適切な評価と判断**
 - 適切な評価と優先順位付けを行い、ポテンシャルの高い医薬品候補を継続的に創出
 - 特定された有望な医薬品候補の開発を加速

2025年度共同研究公募プログラム

TaNeDSの紹介

TaNeDS2025 募集概要

募集期間：2025年6月9日(月) – 10月31日(金)

応募方法： ウェブサイトの応募フォームよりお願いいたします
規定の応募用紙はありませんが、研究概要資料を添付してください
(資料雛形はウェブサイトからダウンロードできます)
必ず、ノンコンフィデンシャルの内容でお願いします

選考方法： 応募いただいた情報を基に、随時、弊社内でレビューいたします
応募後、3週間以内を目途にお返事いたします

契約期間： 共同研究契約の締結日 ~ 2026年3月末
研究計画によって、契約締結日から2年間

研究費： 直接研究費として 200万~2000万円 (要相談)
双方で合意した研究計画に基づき当社が決定いたします

オープンイノベーション

共同研究・協働の提案はこちら

TaNeDS2025 応募ウェブサイト

提案分野	提案概要	提案先
共同研究 (非臨床研究・基盤技術)	<ul style="list-style-type: none">創薬標的の探索／検証、創薬モダリティ、創薬基盤技術等に関する共同研究の提案研究公募プログラムTaNeDS（タネデス） 	共同研究の応募フォーム → 提案資料雛形（※ご利用は任意です）  
共同開発 (臨床研究)	<ul style="list-style-type: none">医療用医薬品の共同開発の提案 (臨床研究／試験にあるシーズ)	提案フォーム (Global Site) →
ライセンス (導入・導出)	<ul style="list-style-type: none">ライセンスアセットの提案	提案フォーム (Global Site) →
研究者主導臨床研究 (臨床研究)	<ul style="list-style-type: none">アカデミア研究者主導による臨床研究／試験の提案	公募サイト →

過去3年間の応募数と採択数

(-)は募集無し

	2024		2023		2022	
	応募	採択	応募	採択	応募	採択
総数	74	7	83	7	105	12
採択率	9 %		8 %		11 %	
募集領域別	審査数	採択数	審査数	採択数	審査数	採択数
がん領域	36	2	60	0	46	1
がん以外の疾患領域	37	1	40	2	73	5
バイオロジクス	2	2	11	2	23	0
細胞治療	-	-	-	-	7	1
創薬基盤技術	16	1	24	2	17	1
製薬技術	5	1	2	1	6	3
次世代領域	-	-	-	-	1	1
選考数の合計	96		137		173	

2025年度 Wish list

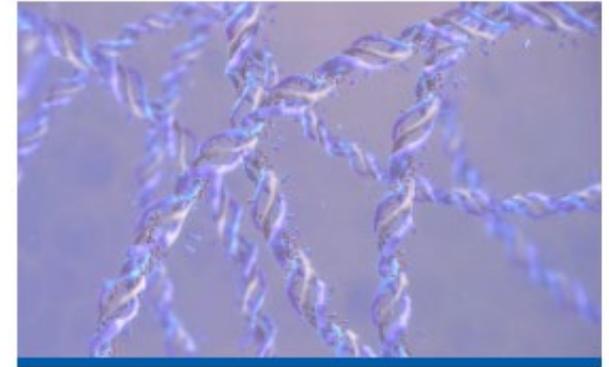
A. 疾患領域別 テーマ



A1 : オンコロジー



A2 : CNS、眼疾患



A3 : 自己免疫疾患、心血管系疾患、ほか

B. 技術関連 テーマ



B1 : 遺伝子治療



B2 : モダリティ関連技術



B3 : 創薬基盤技術

Wish list (A : 疾患研究)

(オンコロジーのみ、次ページ以降で記します)

カテゴリー		キーワード
A1	オンコロジー	がん免疫 (in vitro/in vivoモデル) HEV/TLS研究、ネオ抗原 腫瘍特異的バインダー、 腫瘍環境における機能性化合物 脳転移予防、セラノスティクス創薬、 バイオマーカー研究
A2	CNS、眼疾患	統合失調症、神経変性疾患、 CNS-DDS 網膜色素変性症、黄斑変性疾患モデル 点眼-DDS
A3	自己免疫疾患 心血管系疾患 ほか	自己免疫疾患 / 肺線維症の病態モデル HFpEF病態モデル 末梢虚血状態の定量 プロテアーゼ関連疾患

A1 オンコロジー（1/6）

■ がん免疫研究

A1-01) 腫瘍内TLS/HEVの誘導および評価技術

- ・ 腫瘍内での高内皮細静脈（high endothelial venules (HEV)）を含む三次リンパ組織様構造（tertiary lymphoid structures (TLS)）を誘導する技術を募集します。使用するモダリティはペプチドや抗体、改変タンパク質に限り、低分子や細胞治療は対象外とします。
- ・ 動物モデルや臨床サンプルなどを用いて、腫瘍内TLS/HEVの機能、存在数、分布などを評価する技術も募集します。動物モデルにおいては、バイオマーカーによる評価法など、非侵襲的な手法が望ましいです。

A1-02) Off-the-shelfアプローチを可能とする新規ネオ抗原

以下の要件を満たす新規ネオ抗原を募集します。

1. 腫瘍特異性を有していること
2. 免疫原性が確認されていること
3. 何らかの方法でタンパク質発現が確認されていること
4. Off-the-shelfアプローチが可能な高頻度ネオ抗原であること

A1-03) ヒトのがん細胞由来ネオ抗原が同定でき、薬剤による免疫応答を検出する技術

腫瘍免疫療法の臨床試験における効果の検出・判定を目的として、患者個別の体細胞変異に由来するネオ抗原と、それに対する免疫応答を検出する技術を募集します。既存の技術における課題（少量検体での測定が困難、新鮮凍結切片が必要など）を克服する技術が望ましいです。

A1 オンコロジー (2/6)

■ がん免疫研究

A1-04) 免疫チェックポイント阻害剤に耐性を示すin vivo/in vitroモデル

免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) に耐性を示すin vivoモデル、およびヒトの細胞や腫瘍組織を用いたin vitroモデルに関する研究を募集します。特に以下の要件を満たすモデルを優先します。

- ・ ICI耐性メカニズムが明確である。
- ・ 観察されるICI耐性メカニズムがヒト臨床を反映している。
- ・ 観察されるICI耐性メカニズムが特定の患者選抜バイオマーカーと相関している。

A1-05) 薬剤の有効性と安全性を同時に評価するための、ヒト免疫システムを模倣したマウスモデル

ヒト免疫システムを模倣したマウスモデルの構築技術を募集します。本モデルは、腫瘍免疫領域や自己免疫疾患領域において、CAR-TやT細胞エンゲージャーなど、ヒト免疫細胞を活用したモダリティの有効性と安全性を同時に評価できるものとしします。

A1-06) 腫瘍免疫活性化のPDマーカーとして利用可能なリキッドバイオプシー関連技術もしくはマーカー

臨床試験において腫瘍バイオプシーに代わる技術としてリキッドバイオプシーが注目されていますが、腫瘍免疫療法においては、腫瘍組織ではなく末梢での免疫活性化を反映するマーカーとしての位置付けに留まっています。そこで、腫瘍組織における免疫活性化、特にエフェクターT細胞の活性化を鋭敏に反映し、血中もしくは尿中で定量可能なマーカーやその検出技術を募集します。

A1 オンコロジー (3/6)

■ 腫瘍特異的バインダー、技術

A1-07) がん治療への適用を目的とした、腫瘍組織特異的な抗体関連分子

- 1) 腫瘍組織（腫瘍細胞および免疫細胞）特異的な標的に対する抗体関連分子（抗体または抗体様結合分子〔フラグメント抗体を含む〕）ならびにその探索法研究を募集します。腫瘍組織特異的な標的とは、正常組織との発現量の差ではなく、腫瘍組織特異的な立体構造変化（正常細胞膜上では非活性型をとるが、腫瘍組織では活性型の立体構造をとる、など）や修飾（リン酸化や糖鎖修飾など）に特徴を持つ標的を指します。AI/MLなど in silicoによる腫瘍組織特異的な標的の同定法と、その標的に対する抗体関連分子の取得法を組み合わせた提案が望ましいです。
- 2) 抗体関連分子に適用できる腫瘍特異性向上技術を募集します。具体的には、正常組織においては作用せず、腫瘍微小環境特異的に活性化を誘導する技術、または活性をON/OFF制御する技術を求めています。これにより、がん治療において、正常組織へのオンターゲット毒性を軽減・回避できることが期待されます。

A1-08) 細胞膜上に近接する2分子を標的とした研究

細胞膜上の2分子に着目した以下の研究を募集します。

- ・ 生理学的・機能的に会合する分子対（例：ヘテロダイマー）に関する研究
- ・ 生理学的には近接していない分子を人工的に近づける「近接誘導」に関する研究

本募集には、近接分子の検出・評価方法、創薬研究に結び付く近接分子の探索・同定・生理学的作用解析、2分子を認識するバインダーの研究などが含まれます。将来的にはバイスペシフィック抗体研究への応用を視野に入れています。

A1 オンコロジー (4/6)

■ 腫瘍特異的バインダー、技術

A1-09) 腫瘍環境に応答する機能性分子および活性化型プロドラッグ技術

低酸素や低pHなど、腫瘍特有の環境でのみ機能を発揮する分子や活性化されるプロドラッグ技術を募集します。

A1-10) 腫瘍特異的タンパク質に対する低分子バインダーの取得技術

有効なバインダーが存在しない、腫瘍特異的に発現する標的タンパク質に対し、低分子バインダーを効果的に取得できる技術を募集します。複数のアッセイで、解離定数 (Kd) が100 nM以下の結合活性を示す化合物の取得実績があることが要件です。

A1-11) 腫瘍微小環境を改善させる標的分子または技術に関する研究

1. 固形腫瘍における腫瘍微小環境を改善する、新規の標的分子または技術を募集します。当該技術に用いるモダリティはペプチドや抗体、改変タンパク質に限り、低分子や細胞治療は対象外とします。

募集対象の例：

- 腫瘍血管組織や間質組織（細胞外マトリクスを含む）に特異的な標的分子およびそのバインダー
 - 上記組織の機能や構造を変化させ、免疫細胞の機能や腫瘍浸潤性を改善する標的分子または技術
2. 上記技術による腫瘍微小環境や免疫細胞機能の変化を評価する、in vitroおよびin vivoモデルを募集します。

A1 オンコロジー (5/6)

■ 腫瘍特異的バインダー、技術

A1-12) オリゴヌクレオチド・タンパク質を腫瘍組織選択的に送達する技術

腫瘍組織（腫瘍細胞・環境、がん関連線維芽細胞、間質細胞など）選択的に、オリゴヌクレオチドやタンパク質（細胞内抗体など）を送達できる技術を募集します。肝臓や腎臓への蓄積が既存技術より明確に低いことが望ましいです。また、安定した製造プロセスが確立された技術を優先します。

（注意）免疫細胞を標的とする技術は対象外です。

■ がん基礎研究

A1-13) 脳転移の予防・治療に資する技術・モダリティ

肺がんや乳がんなどにおける脳転移に関して、以下を募集します。

- ・ 脳転移のメカニズムや評価系に関する研究
- ・ 脳転移の予防または治療を可能にする技術・モダリティ
- ・ 経口薬の脳移行性を促進する技術・モダリティ

A1-14) がん治療・診断のためのセラノスティクス創薬

タンパク質工学を活用した、がん治療・診断のためのセラノスティクス創薬に関する研究を募集します。特に、がん組織・細胞に対して特異的に結合することが可能なペプチドやタンパク質（フラグメント抗体や改変タンパク質など）を用いて、造影剤や近赤外光プローブ、ペイロードなどを腫瘍特異的に送達する技術に興味があります。臨床応用など、医療ニーズを踏まえた当該研究の活用法についてのアイデアを併せ持った案件に限ります。

A1 オンコロジー（6/6）

■ がん基礎研究

A1-15) 非アポトーシス型プログラム細胞死を誘導する化合物

アポトーシス以外のプログラム細胞死を誘導する化合物を募集します。細胞死誘導能が培養細胞で確認できていることを必須とします。

A1-16) ヒト腫瘍組織のFFPEサンプルを用いたプロテアーゼ活性解析技術

ヒト腫瘍組織のFFPE（Formalin Fixed Paraffin Embedded）サンプルを用いて、腫瘍の内部もしくは周辺部で高い活性を示すプロテアーゼを同定する技術を募集します。特に臨床で得られたFFPEサンプルでの解析を可能にする技術を求めています。

A1-17) CTCを用いたシングルセル・プロテオミクスおよびRNAシーケンスに関する研究

臨床試験において非侵襲的な手法を用いた腫瘍組織におけるPDバイオマーカー検出の重要性が増しています。そこで、Circulating Tumor Cells（CTC）のシングルセル・プロテオミクスやRNAシーケンスなどの解析によりPDバイオマーカーとしての可能性を検証する研究を募集します。

Wish list (B : 創薬テクノロジー)

(**詳細割愛させていただいております)

カテゴリー		キーワード
B1	遺伝子治療	新規標的研究 AAV関連 (カプシド、プロモーター、バイスタンダー効果、など)
B2	モダリティ関連技術	核酸医薬技術 低分子化合物ライブラリー (構築、管理)
B3	創薬基盤技術	インフォマティクス/AI関連 プラスミドDNAの増幅 ナノ粒子の動態の可視化 In vitro評価系 (毒性、先端技術) Extracellular Vesicles 蛍光イメージング (AAV) 生体内タンパク質ターンオーバー計測 CMC関連技術